

Tokyo Philharmonic Orchestra

Season 2024 subscription series

Booklet

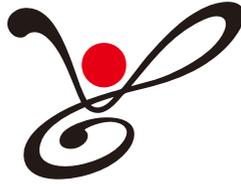


2024シーズン定期演奏会
2024
2

東京フィルハーモニー交響楽団

chie /A.

English pages inside



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・スポンサー

SONY

Rakuten

マルハチ

LOTTE

JP BANK ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第996回サントリー定期シリーズ

2月22日(木) 19:00開演 サントリーホール

第997回オーチャード定期演奏会

2月25日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第160回東京オペラシティ定期シリーズ

2月27日(火) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

2/22

2/25

2/27

指揮：チョン・ミョンフン

コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン：

交響曲第6番 へ長調 Op. 68『田園』（約40分）

- I. 「田舎に到着したときの愉快的感情の目覚め」－アレグロ・マ・ノン・トロppo
- II. 「小川のほとりの情景」－アンダンテ・モルト・モツ
- III. 「田舎の人々による愉快的集い」－アレグロ
- IV. 「雷、嵐」－アレグロ
- V. 「牧歌、嵐の後の喜ばしい感謝の気持ち」－アレグレット

－休憩（約15分）－

ストラヴィンスキー：バレエ音楽『春の祭典』（約35分）

第1部 大地の礼賛

序奏

春の兆し（乙女たちの踊り）

誘拐の儀式

春の Rond

敵部族の儀式

長老の行進

長老の大地への口づけ

大地の踊り

第2部 生贄の儀式

序奏

乙女の神秘的な輪

選ばれし生贄への賛美

祖先の召還

祖先の儀式

生贄の踊り

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）

独立行政法人日本芸術文化振興会（2/22）

協力：Bunkamura（2/25）



♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。

♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。

♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放送響音楽監督および首席指揮者(1984～1989)、パリ・オペラ座バステューユ音楽監督(1989～1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997～2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000～2015)。現在は名誉音楽監督、ソウル・フィル音楽監督(2006～2015)、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者(2012～)など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。2022年6月、イタリア共和国功績勲章であるグランドオフィサーの称号を長年にわたるイタリアの文化発展への貢献に対して受勲。2023年3月、イタリア・ミラノのスカラ・フィルハーモニー管弦楽団として初めての名誉指揮者に就任した。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名譽指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

2/22

2/25

2/27

楽曲紹介

解説=小島広之

ベートーヴェンの『田園』とストラヴィンスキーの『春の祭典』—— 成立時期も楽種も異なる両作品だが、共通点がある。作曲家が生きた時代の「自然観」が見事に結晶化されている点だ。

およそ100年の時を隔てた二人の自然観は対照的だ。ベートーヴェンが青年期を過ごした18世紀は、近代科学と啓蒙主義の時代であった。かつては奇跡と見分けがつかなかったような自然現象が理知的に把握されるようになり、人間は自然を支配する術を得るようになった。怪異の住まう場所であった森林は、もはや気晴らしの空間になりつつあった（散歩や公園はおよそこの頃になって流行した）。一方、ストラヴィンスキーの時代には、おおよそ逆の運動が起こっていた。無意識のような人間の内なる「自然」が認識されるようになり、その制御不可能性が認識されるようになったのだ。外の怪異は追い払われたが、内なる怪異を否定できなくなった。このような背景が、本プログラムの音楽的／音楽史的魅力を際立たせている。

ベートーヴェン

交響曲第6番 へ長調 Op. 68『田園』

19世紀のはじめ、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)の名声は拘束されたものになりつつあった。だが、それに伴ってストレスは嵩み、難聴もいっそう悪化した。このような状況下、1802年に彼はウィーン郊外のハイリゲンシュタットを訪れる——中心地から馬車で1時間程度の近さであるが、療養には適切な自然に満ちた地域だ。ここでベートーヴェンは散歩や天体観測を楽しむことができた。

この自然体験が『田園』には息づいている。この作品には「絵画というよりむしろ感情の表現」という注釈が与えられたため、多くの解説ではこの作品が単なる描写音楽にとどまらないことに力点が置かれてきた。だが、ここではむしろ、

この注釈においてさえ絵画的性格が否定はされていないことを強調したい。特に第2～4楽章には、春のウィーンの香りが濃厚に刻み込まれている。近代人として自然に触れ合っていたからこそ、ベートーヴェンは、喜ばしい筆致で自然を音楽的に描き出すことができたのだ。彼は「私のように田園を愛する人間はいない」とさえ語った。

まだ落成して日の浅いアン・デア・ウィーン劇場で1808年12月22日に行われた初演は、端的に言って失敗に終わったが、このことは作曲の失敗を意味しない。4時間がかかりのあまりに長大なプログラムやりハーサルの不備が失敗の原因であったと考えられる。

各楽章にはタイトルが付されている。**第1楽章**は「**田舎に到着したときの愉快な感情の目覚め**」。この楽章の最大の特徴は、最初に提示される主題が、パズルのように断片化されながら幾度も現れるところにある。同日に初演された『運命』との関連をおもわせる徹底的な労作を通して、ここでは具体的な自然ではなく、むしろより抽象的な「感情」が音楽化されている。

第2楽章「**小川のほとりの情景**」からは、濃い自然の香りがたちこめる。弦の細かな動きは、水面に映る光の遊戯を感じさせる。その背後には木管楽器の優美な歌。最終部、一旦音が鳴りやむと、フルートがナイチンゲール、オーボエがウズラ、クラリネットがカッコウの声を模写する。

第3～5楽章はアツッカ（切れ目なし）で演奏される。**第3楽章**は「**田舎の人々による愉快的集い**」で踊られるような三拍子の舞曲。トランペットも加わり、田舎の祭事を連想させる活力のある音楽。**第4楽章**「**雷、嵐**」はエピソード的な短い楽章。ティンパニとトロンボーン、そしてピッコロが加わり、けたたましい轟音が描き出される。**第5楽章**は「**牧歌、嵐の後の喜ばしい感謝の気持ち**」。冒頭、クラリネットが奏でる主題は、神話的で超然とした自然を思わせるほど銜^{てら}いない。きわめて素朴な素材から織り出された歓喜の音楽は、最後には、全楽器による合奏を経て、別れを告げるような弦楽合奏に収斂する。

【作曲年代】1808年 【初演】1808年12月22日、ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場にて、作曲家自身の指揮による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ、弦楽5部

ストラヴィンスキー バレエ音楽『春の祭典』

1909年、イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882-1971)は演出家セルゲイ・ディアギレフと出会った(その出会いの経緯は定かでない)。もしこの出会いがなければ、その後の音楽史は、おそらく全く違うものになっていただろう。こう主張できるほど、二人が共犯的に生んだ『春の祭典』は、従来の価値観を転覆してしまったのだ。

1913年5月29日、当時最新のパリ・シャンゼリゼ劇場で行われた初演は、よく知られているように、スキャンダルを巻き起こした。そしてこのスキャンダルこそが、本作品の音楽史的重要性の証拠であるといえる。スキャンダルの原因は、従来の音楽の受け手である教会、貴族、あるいは市民が醸成してきた「趣味」の裏切りにあった。本来なら理知的で優美に踊る“べき”ダンサーたちが、この作品では、内なる自然に征服されるように、狂気の音楽に屈服したのである。目を瞑りたくなるような野蛮と滑稽が舞台上げられたことは、慣習的な趣味の持ち主にとって我慢ならないことであった。しかし、それにもかかわらず、この音楽は、10年足らずのうちにロンドン、モスクワ、フィラデルフィア、ベルリン……と世界中で演奏され、人々を魅了するようになる。古い趣味の否定は、当時の人々が欲したものであったのだ。この欲求が、今なお現代音楽を突き動かしている。

「**大地の礼賛**」と「**生贄の儀式**」の二部構成。本作は明瞭な筋を持たないが、ここではバレエの情景もあわせて解説する。第1部の「**序奏**」では、超高音のファゴットが狂乱の前の静寂とざわめきを印象付ける。「**春の兆し(乙女たちの踊り)**」は、最初に作曲された部分。弦楽器が不協和音を痙攣的に乱打し、春の到来に狂喜する村人たちを表現する。太鼓を合図に「**誘拐の儀式**」が開始すると、乙女たちを含めて皆で踊る。熱を帯びた踊りは、フルートのトリルに導かれて、ゆったりとした乙女たちの「**春のロンド**」に引き継がれる。Es管クラリネットの静かな旋律が、突如打楽器と低音金管楽器に打ち切られると、「**敵部族の儀式**」が開始する。張りのあるホルンの旋律に伴い「**長老の行進**」が開始すると、音楽が静止するが(「**長老の大地への口づけ**」)、即座に「**大地の踊り**」がはじ

2/22

2/25

2/27

まり熱狂する。

第2部の「序奏」は、木管楽器による妖しい旋律ではじまり、チェロのソロで終了する。神秘的な弦楽器にはじまる「乙女の神秘的な輪」は、旋律を維持しながら雰囲気を変転するが、もはや狂乱は止んだかのような印象を一貫して与える。しかし、唐突に太鼓が11回鳴らされると、獣性を剥き出しにした音楽が「選ばれし生贄への賛美」を表現する。次いで、トランペットを中心とする明瞭な旋律によって乙女たちが踊る「祖先の召還」、すぐにバスドラムとタンバリンがリズムを刻み「祖先の儀式」。バス・クラリネットの奇矯なソロを経て「生贄の踊り」——生贄に選ばれた乙女が踊り、ボルテージは最高潮に達する。最後の劇的なトゥッティにおいて、生贄はこと切れる。

【作曲年代】1911～1913年 【初演】1913年5月29日、パリ、シャンゼリゼ劇場にて、ピエール・モンローの指揮による

【楽器編成】フルート3(3番は第2ピッコロ持ち替え)、ピッコロ、アルト・フルート、オーボエ4(4番は第2イングリッシュ・ホルン持ち替え)、イングリッシュ・ホルン、小クラリネット(E♭、D)、クラリネット3(3番は第2バス・クラリネット持ち替え)、バス・クラリネット2、ファゴット4(4番は第2コントラファゴット持ち替え)、コントラファゴット、ホルン8(7、8番はテナー・チューバ持ち替え)、ピッコロ・トランペット、トランペット4(4番はバス・トランペット持ち替え)、トロンボーン3、チューバ2、ティンパニ2、打楽器(タンブリン、大太鼓、トライアングル、アンティーク・シンバル2、シンバル、タムタム、ギロ)、弦楽5部

こじま・ひろゆき／1993年生まれ。専門は20世紀音楽・音楽批評研究。現在、東京大学総合文化研究科およびベルリン・フンボルト大学に在籍。研究活動と並行して、最新の現代音楽における「作曲行為」に触れるためのウェブメディア「スタイル&アイデア:作曲考」を運営。さらに音楽評論活動を行なっている(第9回柴田南雄音楽評論賞奨励賞受賞)。

The 996th Suntory Subscription Concert
Thu. Feb. 22, 2024, 19:00 at Suntory Hall

The 997th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. Feb. 25, 2024, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 160th Tokyo Opera City Subscription Concert
Tue. Feb. 27, 2024, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

Myung-Whun Chung, conductor

Akihiro Miura, concertmaster

Beethoven: Symphony No. 6 in F major, Op. 68, "Pastoral" (ca. 40 min)

- I. Awakening of happy feelings on arriving in the country: Allegro ma non troppo
- II. By the brook: Andante molto mosso
- III. Merry gathering of country folk: Allegro
- IV. Thunderstorm: Allegro
- V. Shepherd's song — Happy and thankful feelings after the storm: Allegretto

— intermission (ca. 15 min) —

Stravinsky: Ballet "The Rite of Spring" (ca. 35 min)

Part I: The Adoration of the Earth

Introduction
 Augurs of Spring;
 Dance of the Adolescent Girls
 Game of Abduction
 Spring Round Dances
 Games of the Rival Tribes
 Entrance of the Sage
 Adoration of the Earth
 Dance to the Earth

Part II: The Sacrifice

Introduction
 Mysterious Circles of the Adolescents
 Glorification of the Chosen One
 Evocation of the Ancestors
 Ritual of the Ancestors
 Sacrificial Dance of the Chosen One

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
 Japan Arts Council (Feb. 22)
 In Association with **Bunkamura** (Feb. 25)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

22
Feb25
Feb27
Feb

Artist Profile



©Takafumi Ueno

Myung-Whun Chung, conductor

Honorary Music Director of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000- 2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden. In June 2022, he received the title of Grand Officer of the Order of Merit of the Republic of Italy for his contributions to Italian cultural development over the years. In March 2023, he became the first-ever Conductor Emeritus of the Filarmonica della Scala in Milan.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001- 2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.

Program Notes

Text by Robert Markow

Beethoven: Symphony No. 6 in F major, Op. 68 "Pastoral"

The dividing line between program music and absolute music is a thin one, but Beethoven proved himself a master of both in his Sixth Symphony. Although the work has been produced with scenery, with characters who move about on stage, and as part of the cinema classic *Fantasia*, Beethoven took care to advise that the symphony is “more an expression of feeling than painting.” Each listener should let his or her imagination work its own spell. After all, wrote Beethoven, “composing is thinking in sounds.” Hence, he continues, the *Pastoral* Symphony is “no picture, but something in which the emotions aroused by the pleasures of the country are expressed, or something in which some feelings of country life are set forth.”

Beethoven’s own love for the pleasures of the country is well-known. In a life of almost constant turmoil, anxiety, and stormy relationships, the periods he spent in the woods outside Vienna offered his tortured soul precious solace and peace of mind. To quote the composer again: “How glad I am to be able to roam in wood and thicket, among the trees and flowers and rocks. No one can love the country as I do. ... My bad hearing does not trouble me here. ... In the woods there is enchantment which expresses all things.”

Beethoven’s *Pastoral* Symphony received its first performance in Vienna as part of that incredible marathon concert of December 22, 1808 at the Theater an der Wien, an all-Beethoven concert that also included the Fifth Symphony, Fourth Piano Concerto, *Choral Fantasy* and some vocal and choral music. It is dedicated to two of Beethoven’s most ardent patrons, Prince Lobkowitz and Count Razumovsky.

The symphony’s opening places us immediately in relaxed, beatific surroundings. The day is sunny, warm and abounding in nature’s fragrances and gentle breezes. But aside from conjuring nature imagery, the music is remarkable for its motivic writing: virtually the entire movement is built from tiny musical cells found in the first two bars. Entire phrases and sentences are

22
Feb

25
Feb

27
Feb

often formed from these motivic ideas repeated again and again. The second movement invites contemplation. To the musicologist Donald Francis Tovey, this is “a slow movement in full sonata form which at every point asserts its deliberate intention to be lazy and to say whatever occurs to it twice in succession, and which in doing so never loses flow or falls out of proportion.”

The Sixth is the only symphony in which Beethoven departs from the four-movement format. The remaining three movements are played without interruption. Rough, peasant merry-making and dancing are portrayed, but the boisterous festivities suddenly stop when intimations of an approaching storm are heard. There is not much time to take cover; a few isolated raindrops fall, and then the heavens burst open. Timpani, piccolo and trombones, hitherto silent in the symphony, now make their entrances. With the tempest over, a shepherd’s pipe is heard in a song of thanksgiving for the renewed freshness and beauty of nature. The joyous hymn is taken up by the full orchestra as if, to quote the conductor Edward Downes, “in thanks to some pantheistic god, to Nature, to the sun, to whatever beneficent power one can perceive in a universe that seemed as dark and terrifyingly irrational in Beethoven’s day as it can in ours.”

LUDWIG VAN BEETHOVEN: Born in Bonn, December 16, 1770; died in Vienna, March 26, 1827

Work composed: 1808 **World premiere:** December 22, 1808 at Theater an der Wien in Vienna, conducted by the composer

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, 2 trombones, timpani, strings

Stravinsky: Ballet "The Rite of Spring"

Who wrote this fiendish *Rite of Spring*
 What right had he to write the thing,
 Against our helpless ears to fling
 Its crash clash cling clang bing bang bing?

The anonymous author of this witty verse, which appeared in the Boston *Herald* following the local premiere of *Le Sacre du printemps* (*The Rite of Spring*), obviously hadn't been able to come to terms with this most revolutionary of masterpieces, even eleven years after its riotous Paris premiere in 1913. But Stravinsky's right to create was not really in question. The issue concerned in part the music's unprecedented degree of explosive power, volcanic sounds produced by a gigantic orchestra, savage rhythmic impulses, and rending dissonances, all of which combined to provoke early critics into speaking or writing as if, in the words of Donald Mitchell, "the music had done them personal injury, physical violence, as if the score of the ballet were an instrument of aggression."

But its brutality and violent dissonance were not the only reasons for the reaction *Sacre* engendered. It seemed to reach deep into the subconscious, to activate instinctual, primal feelings and responses that are often depicted in myths. The mythic, archetypal element of *Sacre* has led some commentators to interpret the score in terms of Jungian psychology.

Stravinsky described the moment of conception, which took place during the spring of 1910 while he was working on *The Firebird* in St. Petersburg, in these terms (from *Chronicle of My Life*): "I saw in imagination a solemn pagan rite: wise elders, seated in a circle, watching a young girl dance herself to death. They were sacrificing her to propitiate the god of spring." He then described the vision to Sergei Diaghilev, director of the Ballets russes, who saw balletic possibilities in it, and to the designer, painter and archeologist Nicholas Roerich.

Work on several other compositions, including the highly successful *Petrushka*, intervened between Stravinsky's original conception and completion of *Sacre*, but well before *Sacre's* premiere in Paris on May 29, 1913, Pierre Monteux, conductor of the historic performance, sensed the approaching trauma. He wrote of his initial acquaintance with the music: "With only Diaghilev and myself as audience, Stravinsky sat down to play a piano reduction of the entire score. Before he got very far I was convinced he was raving mad. Heard this way, without the color of the orchestra, which is one of its greatest distinctions, the crudity of the rhythm was emphasized, its stark primitiveness underlined. The very walls responded as Stravinsky pounded away. ... My only comment at the end was that such music would surely cause a scandal."

22
Feb25
Feb27
Feb

And cause a scandal it did – probably the most famous musical scandal of the century. At the Théâtre des Champs-Élysées, the audience almost immediately began laughing, booing and heckling. Unrest turned to anger, and then to violence, requiring an appearance by the gendarmes. The ballet, choreographed by Nijinsky, managed to continue to the end, but for weeks and months afterwards, newspapers and journals were filled with vivid descriptions of the event. Carl van Vechten dubbed it “war over art.” Léon Vallas referred to it as “Le Massacre du printemps.” And Nicolas Slonimsky, writing more with reason than passion, observed somewhat later that “from the initial bassoon solo to the final frenzy of the sacred dance, *Le Sacre du printemps* relentlessly moves on, creating musical values so new that the world was faced with the alternative either to reject this music as a freakish exhibition of an unbalanced young man, or to accept it as a revolutionary innovation.”

The whole phenomenon of *Le Sacre du printemps* is perhaps most succinctly summarized in Pierre Boulez’ statement: “It has become the ritual – and the myth – of modern music.”

IGOR STRAVINSKY: Born at Oranienbaum (a resort near St. Petersburg), June 17, 1882; died in New York City, April 6, 1971

Work composed: 1911-1913 **World premiere:** May 29, 1913 at Théâtre des Champs-Élysées in Paris, conducted by Pierre Monteux

Instrumentation: piccolo, 3 flutes (3rd doubling second piccolo), alto flute, 4 oboes (4th doubling second English horn), English horn, clarinet in E \flat and D, 3 clarinets (3rd doubling second bass clarinet), 2 bass clarinets, 4 bassoons (4th doubling second contrabassoon), contrabassoon, 8 horns (7th and 8th doubling tenor tubas), 4 trumpets (4th doubling bass trumpet), 3 trombones, 2 tubas, timpani (2 players), percussion (tambourine, bass drum, triangle, antique cymbals, cymbals, tam-tam, güiro), strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

Season 2024 Subscription Concerts Lineup

We are pleased to inform dear audience the Tokyo Phil's season 2024 subscription lineup! Please join us the ultimate concert experience by subscribing to our concert series. You can select from 3 subscription concerts at Tokyo's top venues, Bunkamura Orchard Hall, Tokyo Opera City Concert Hall, and Suntory Hall.

For more details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en/>

March

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor **soprano: Vittoriana De Amicis**,
countertenor: Tadashi Miroku **baritone: Michele Patti**

chorus: New National Theatre Chorus **children chorus: Setagaya Junior Chorus**

Sun, Mar 10, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Wed, Mar 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri, Mar 15, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Respighi:
Ancient Airs and Dances Suite No. 2

Orff:
Carmina Burana

Single tickets available

June

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director,

piano: Keigo Mukawa **Ondes Martonot: Takashi Harada**

The 1000th Subscription Concert
Sun, Jun 23, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jun 24, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Wed, Jun 26, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Messiaen:
La Turangalila-symphonic

Single tickets available

Single ticket prices

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300)

C¥5,500(¥4,950)

()=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

<https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522**
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



July

conductor: Dan Ettinger, conductor laureate **piano: Tomoki Sakata**

Wed, Jul 24, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jul 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jul 29, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mozart:
Piano concerto No. 20
Bruckner:
Symphony No. 4 *Romantic*

Single tickets will be available from April on

September

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director

Macbeth: Sebastian Catana **Lady Macbeth: Vittoria Yeo** **Banquo: Alex Esposito**

Macduff: Stefano Secco **Malcolm: Keiro Ohara**

Lady-in-waiting to Lady Macbeth: Yuka Tajima **A Doctor: Takayuki Ito**

Servant of Macbeth/Murderer/Herald: Yuichiro Ichikawa

Chorus: New National Theatre Chorus

Sun, Sep 15, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Sep 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Sep 19, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Verdi: opera *Macbeth*
Concert-Style Opera in four acts with Japanese surtitles

Single tickets will be available from April on

October

conductor: Daichi Deguchi **violin: Moné Hattori**

Thu, Oct 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Fri, Oct 18, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Oct 20, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Khachatourian:
Excerpts from *The Valencian widow* suite
Fazil Say:
Violin concerto *1001 Nights in the Harem*
Kodály: Dances of Galánta
Kodály:
Variations on a Hungarian Folksong
The Peacock

Single tickets will be available from April on

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor

Wed, Nov 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Nov 17, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Nov 19, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mahler:
Symphony No. 7 *Nachtmusik*

Single tickets will be available from April on

東京フィルだより — 2024年シーズン今後の定期演奏会

3月定期演奏会

第998回オーチャード定期演奏会

3月10日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第161回東京オペラシティ定期シリーズ

3月13日(水)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第999回サントリー定期シリーズ

3月15日(金)19:00 サントリーホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ

(東京フィル 首席指揮者)

ソプラノ：ヴィットリアーナ・デ・アミーチス*

カウンターテナー：彌勒忠史*

バリトン：ミケーレ・パッティ*

合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：富平恭平)*

児童合唱：世田谷ジュニア合唱団(児童合唱指揮：掛江みどり)*

レスピーギ/リュートのための古風な舞曲とアリア 第2組曲
オルフ/世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』*



アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文

ヴィットリアーナ・
デ・アミーチス 彌勒忠史
©Giada Sponzilli



ミケーレ・パッティ

1回券発売中

6月定期演奏会

第1000回 オーチャード定期演奏会

6月23日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第1001回サントリー定期シリーズ

6月24日(月)19:00 サントリーホール

第162回東京オペラシティ定期シリーズ

6月26日(水)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮：チョン・ミョンファン(東京フィル名誉音楽監督)

ピアノ：務川慧悟

オンド・マルトノ：原田 節

メシアン/トゥランガリーラ交響曲

公演時間：約80分(休憩なし)



チョン・ミョンファン ©上野隆文

務川慧悟 原田 節
©Miyamashiro

1回券発売中

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



カール・オルフ 『カルミナ・ブラーナ』によせて ——ミュンヘンを歌う現代の詩人

文=アンドレア・バッティストーニ / 訳=井内美香

3月定期演奏会には首席指揮者アンドレア・バッティストーニが登場。待ち望まれた大曲、カール・オルフ『カルミナ・ブラーナ』をメインに、20世紀の2人の作曲家、レスピーギとオルフが生み出した中世と現代の架け橋ともいべき2作品を取り上げます。昨年12月、バイエルン州立歌劇場への出演で作曲家オルフゆかりの土地ミュンヘンに滞在中のマエストロから、当地を舞台に生まれた大作『カルミナ・ブラーナ』によせたエッセイが届きました。

カール・オルフ『カルミナ・ブラーナ』の世界を掴み取るために

カール・オルフは、世に名高い『カルミナ・ブラーナ』と同じほど、バイエルンの民間伝承とドイツ南部のこの地域で親しまれてきた童話の登場人物たちに題材を得



カール・オルフ(Carl Orff, 1895-1982)。ミュンヘンに生まれ同地に没した ©Anne Kirchbach

た一連の劇作品(オペラ『月』『賢い女』『ベルナウアーの女』他、多作品)においても、彼の生地であるバイエルン、ミュンヘンを歌う現代の詩人であった。

オルフの代表作である『カルミナ・ブラーナ』の精神を直観的に把握したいと望むなら、ミュンヘンの中央部にあるマリエン広場を訪れるといい。



マリエン広場(Marienplatz)にある新市庁舎。オルフが創作した『世界劇』のファンタジックな世界が見てとれるだろう ©Adobe Stock

有名なカリヨンの仕掛け時計を備えた堂々たるネオ・ゴシック様式の新市庁舎の正面で、それを見つけるだろう。

ファサードを飾る数々の彫像を注意深い眼差しで検分することは、オルフの作品がその舞台としてのおとぎ話の世界に近づくのと同義である。市庁舎の^{あまた}数多の小尖塔から、仕掛け時計の人形たちの輪舞

に至るまで、オルフが『カルミナ・ブラーナ』の中で見事に描いてみせた聖と俗の、敬虔さと異教の、幻想と陳腐さの非凡な混淆の中で、中世のおとぎ話を起源とする、かの“世界劇”(訳注:オルフは音楽・言語・舞踏の統合を目指した自身の劇作品にこう名付けた)の舞踏を我々は目にするのである。

市庁舎と同じように、このカンタータは、外面のきらびやかさという見かけの下に、宗教的とは言えないまでも聖なる色合いを持つ世界の叙述の深みを隠している。いわば、宇宙的かつ生氣論的汎神論に裏打ちされた神秘主義である。

この作品はもちろん、聴衆に注ぎ込む表面的なリズムによる興奮、オーケストラと合唱の熱狂的な音の輝かしさによって広く知られている。だがこの曲はさらに、とりわけ、密やかな言葉と深い内省をもって寛大な愛の喜びを描く箇所、平和と詩のオアシスに引きこもることもできる。

あらゆる様式を駆使した折衷主義者カール・オルフ

音楽的観点からすると、オルフは20世紀の偉大な折衷主義の一派に属している。つまり、彼は嗜好によって特定の要素を軽んじたりしないし、聴衆を驚かせ惹き込むために彼が使いこなせない音楽様式は存在しない。オペラのアリアからピヤホールの歌まで、ジャムセッションからグレゴリオ風の合唱まで、この作曲家は軽やかに移り行く。

そしてたとえオルフにかけられた、ナチスへの協力者であるという疑いが決して完全には晴れなかったとしても、多くのリズムのパスセージにジャズの強い刻印があることに気づくだけで、彼を疑惑から解放するには十分だろう。—— ナチスが好んだのはワーグナーやリヒャルト・シュトラウス、デカダンス的なロマン派の伝統の賛

美だったが、オルフはそこから明らかに、当時のより革新的な音楽へと移行していた。ストラヴィンスキー(当時の政権に最大限に嫌悪された作曲家)の記憶や、まさにオルフ自身が劇場やコンサートホールに導入した、多くの聴衆に好まれていた『退廃芸術』である。

現代と中世という遠い時代が互いに手を差し伸べている

巨大なフレスコ画には巨大な道具が必要であり、『カルミナ・ブラーナ』が要求する楽団編成は、オーケストラと合唱によるレパートリーの中でも最も巨大なものの一つである。大人数の(大人の)合唱、児童合唱、3人の独唱者、打楽器を多く含む巨大なオーケストラと2台のピアノ。器楽的な面でいえば『カルミナ』は、オルフが子供や学生相手の音楽教育活動(シュールヴェルク)を通して培った、打楽器のリズムと色彩が豊かな音楽様式の大人バージョンというべきもので、ここでも太鼓や木琴、シンバルやタンバリン、グロッケンシュピールやチェレスタやピアノの音が、間違えようのない独特な魅力のリズムのパレットを再び作り出している。現代と中世という2つの遠い時代がここでは、人間らしさに満ちた打ち解けた喜びの現れの中で互いに手を差し伸べているように感じられ、その音楽言語は、踊ること、物語を語ること、古の伝説に即興で歌をつけること、これらの行為と共に音を奏でるといふ最も原初の音楽行動に端を発している。

オルフはおそらく、自身を古代の音楽家と為すことで、未来の音楽の鍵を発見したのだろう。



世界の歌劇場で活躍するマエストロ。声楽と合唱を伴う大規模な管弦楽作品は待望のプログラムだ ©K. Miura

News & Information

【提携都市公演】

軽井沢大賀ホール2024春の音楽祭 チケット好評発売中!

日時・会場 5月3日(金) 16:00開演 軽井沢大賀ホール

出演 指揮: 阪 哲朗、ピアノ: 牛田智大*、
東京フィルハーモニー交響楽団曲目 モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番*
ブラームス／交響曲第2番料金(全席指定) SS席 ¥11,000 S席(1階・2階) ¥9,000
A席 ¥6,500 B席 ¥5,500 C席(2階立見席) ¥4,500
W席(2階合唱席) ¥5,000

お問合せ

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522 (平日10:00~18:00/土日祝休)

軽井沢大賀ホールチケットサービス 0267-31-5555 (休館日を除く10:00~18:00)

阪 哲朗
©Florian Hammerich牛田智大
©Ariga Terasawa

ホルン奏者の山本友宏さんが2024年1月をもって定年退職されました。

ホルン奏者 山本友宏(1985年6月、新星日本交響楽団入団)は、2024年1月末をもって定年退職いたしました。39年間の長きにわたり、お疲れ様でした。東京フィルでの最後の出演公演は2023グランドオペラフェスティバル in Japan 東京二期会オペラ『椿姫』でした。今後の更なる活躍をお祈りいたします。



©三好英輔

2024シーズン 今後の定期演奏会

2024シーズンの東京フィル定期演奏会は名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ、そして桂冠指揮者ダン・エッティンガーと俊英・出口大地を迎え管弦楽の佳品をバランスよくお楽しみいただけるプログラムです。マエストロたちと東京フィルの充実、音楽との融合、協奏曲の躍動を引き続きどうぞお楽しみください。

3
月

指揮: アンドレア・バッティストーニ
(首席指揮者)

ソプラノ: ヴィットリアーナ・デ・アミーチス*

カウンターテナー: 彌勒忠史*

バリトン: ミケーレ・バッティ*

合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮: 富平恭平)*

児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団

(児童合唱指揮: 掛江みどり)*

第998回 3月10日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

第161回 3月13日(水) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第999回 3月15日(金) 19:00
サントリーホール

レスピーギ/
リュートのための古風な舞曲とアリア 第2組曲
オルフ/
世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』*



1回券発売中

6
月

指揮: チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)

ピアノ: 務川慧悟

オンド・マルトノ: 原田 節

第1000回 6月23日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

第1001回 6月24日(月) 19:00
サントリーホール

第162回 6月26日(水) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

メシアン/トゥランガリーラ交響曲
公演時間: 約80分(休憩なし)

1回券発売中

7
月

指揮: ダン・エッティンガー (桂冠指揮者)

ピアノ: 阪田知樹*

第163回 7月24日(水) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第1002回 7月28日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

第1003回 7月29日(月) 19:00
サントリーホール

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第20番*
ブルックナー/
交響曲第4番『ロマンティック』
(ノヴァーク版)
〈ブルックナー生誕200年〉

1回券4月発売

<p>9月 指揮: チョン・ミョンフン (名誉音楽監督) マクベス: セバスティアン・カターナ マクベス夫人: ヴィットリア・イエオ バンクォー: アレックス・エスポージト マクダブ: ステファノ・セッコ マルコム: 小原啓楼 侍女: 但馬由香 医者: 伊藤貴之 マクベスの従者、刺客、伝令: 市川宥一郎 合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮: 富平恭平)</p> <p>第1004回 9月15日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1005回 9月17日(火) 19:00 サントリーホール 第164回 9月19日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール</p>	<p>ヴェルディ / 歌劇『マクベス』</p> <p>オペラ演奏会形式</p> <p>公演時間: 約2時間45分(休憩含む)</p> <p>1回券 4月発売</p>
<p>10月 指揮: 出口大地 ヴァイオリン: 服部百音*</p> <p>第1006回 10月17日(木) 19:00 サントリーホール 第165回 10月18日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1007回 10月20日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール</p>	<p>ハチャトゥリアン / 『ヴァレンシアの寡婦』組曲より ファジル・サイ / ヴァイオリン協奏曲『ハーレムの千一夜』* コダーイ / ガランタ舞曲 コダーイ / ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲</p> <p>1回券 4月発売</p>
<p>11月 指揮: アンドレア・パッティストーニ (首席指揮者)</p> <p>第166回 11月13日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第1008回 11月17日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第1009回 11月19日(火) 19:00 サントリーホール</p>	<p>マーラー / 交響曲第7番『夜の歌』</p> <p>公演時間: 約80分(休憩なし)</p> <p>1回券 4月発売</p>

1回券料金(全席指定・税込)

SS席 ¥15,000 S席 ¥10,000(¥9,000) A席 ¥8,500(¥7,650)
 B席 ¥7,000(¥6,300) C席 ¥5,500(¥4,950) ()=東京フィルフレンズ料金

お問合せ 東京フィルチケットサービス

詳細はこちら

Tel **03-5353-9522** (平日10時~18時・土日祝日休 /
 発売日の土日祝は10時~16時)
 URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)



午後のコンサート。 2024シーズンラインナップ

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2024シーズンのラインナップを発表いたしました。オーケストラの名曲と音楽家のお話としておきのお話で楽しむ午後のひととき。2024シーズンも引き続き、東京フィルの午後のコンサートをお楽しみください。

ただ今、4回セット券販売期間中です。シリーズ・席種により売完となっている可能性があります。ご了承ください。

渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

5月19日(日)

第21回

クラシック・ジュークボックス

指揮とお話:
栗田博文
ピアノ:
壺阪健登

1回券
3月発売



©友澤綾乃 ©川口宗道

7月7日(日)

第22回

夏のパリへ

指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り: 調整中

1回券
5月発売



©Earl Ross

9月8日(日)

第23回

心躍らせたあの曲との再会

指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者

ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

1回券
5月発売



©上野隆文

11月4日(月・祝)

第24回

なんでもOKストラ!!

指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売



©上野隆文 ©Yuji Takeuchi

平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

5月15日(水)

第33回

クラシック・ジュークボックス

指揮とお話:
栗田博文
ピアノ:
壺阪健登

1回券
3月発売



©友澤綾乃 ©川口宗道

7月4日(木)

第34回

夏のパリへ

指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り: 調整中

1回券
5月発売



©Earl Ross

9月4日(水)

第35回

心躍らせたあの曲との再会

指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者

ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

1回券
5月発売



©上野隆文

11月8日(金)

第36回

なんでもOKストラ!!

指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売



©上野隆文 ©Yuji Takeuchi

2024シーズン「渋谷」「平日」シリーズは同演目になります。

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

4月14日(日)

第100回

響演!
100回記念スペシャル

指揮とお話:
円光寺雅彦

合唱:
新国立劇場合唱団 ほか



©K.Miura

1回券
3月発売



©上野隆文

6月9日(日)

第101回

コパケンの「わが祖国」

指揮とお話:
小林研一郎

ピアノ:
小林愛実



©上野隆文 ©Mekoto Nakagawa

1回券
3月発売

8月12日(月・祝)

第102回

山の思い出

指揮とお話:
横山 奏

ヴァイオリン:
辻 彩奈

ゲスト:
石丸謙二郎



©平銀平 ©Makoto Kaniya

1回券
5月発売

10月14日(月・祝)

第103回

クラシックの車窓からII

指揮とお話:
角田鋼亮

チェロ:
鳥羽咲音



©Hikaru Hoshi ©Julia Wesely

1回券
8月発売

午後のコンサート。1回券 発売スケジュール

	最優先発売 (賛助会員・定期会員)	優先発売 (東京フィルフレンズ・WEB優先)	一般発売
4月・5月・6月公演	3月5日(火) 10:00~	3月9日(土) 10:00~	3月19日(火) 10:00~
7月・8月・9月公演	5月14日(火) 10:00~	5月18日(土) 10:00~	5月28日(火) 10:00~
10月・11月公演	8月20日(火) 10:00~	8月24日(土) 10:00~	9月3日(火) 10:00~

◆渋谷/平日/休日 各シリーズ共通 4回セット券

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員 WEB優先発売期間	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。

※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。お申し込みの際は【イベント託児・マザーズ®】0120-788-222 (土日祝日を除く10:00-12:00、13:00-17:00)までご連絡下さい。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時~18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時~16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



Photo Reports 2024年1月の演奏会より

2024シーズン開幕の1月定期演奏会は、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフが登場。2021年ショパン国際ピアノコンクール3位、スペイン出身のマルティン・ガルシア・ガルシアを迎え、北欧を代表する作曲家たちの名曲プログラムをお届けしました。プレトニョフのもと紡がれる力強く雄大な音楽を、たくさんのお客様にお楽しみいただきました。

提携都市公演では、文京シビックホール「響きの森クラシック・シリーズVol. 78」(1/20)と2/4第56回千葉市定期演奏会(千葉市民会館 開館50周年記念事業)を開催。いずれも満席のお客様に名曲をお届けいたしました。

1月定期演奏会(1/22、25、28)

撮影=上野隆文

指揮：ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)

ピアノ：マルティン・ガルシア・ガルシア*
(2021年第18回ショパン国際ピアノコンクール第3位)

コンサートマスター：依田真直

シベリウス／組曲『カレリア』

グリーグ／ピアノ協奏曲*

【ソリスト・アンコール】

アルベニス／ナヴァーラ(1/22)

シューマン＝リスト／献呈(1/25)

グリーグ／抒情小曲集第8集より第6曲

「トルドハウゲンの婚礼の日」(1/28)

シベリウス／交響曲第2番



マエストロ プレトニョフはこれまでもグリーグ『ペール・ギュント』やピアノ協奏曲、シベリウスの交響曲作品を取り上げてきました



響きの森クラシック・シリーズVol.78(1/20)

撮影=K.Miura

指揮：小林研一郎

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番*

ピアノ：松田華音*

【ソリスト・アンコール】シューマン／ロマンス Op. 28

コンサートマスター：近藤 薫

ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

【オーケストラ・アンコール】ドヴォルザーク／交響曲第9番
『新世界より』より第4楽章

マエストロ小林研一郎とピアニスト松田華音さんのコンビによるラフマニノフは、満場のお客様の熱い拍手を呼びました

第56回千葉市定期演奏会 ～千葉市民会館 開館50周年記念事業(2/4)

指揮：尾高忠明(桂冠指揮者)

ヴァイオリン：前田妃奈*

(2022年第16回ヴェルディ国際ヴァイオリン・コンクール優勝)

コンサートマスター：近藤 薫

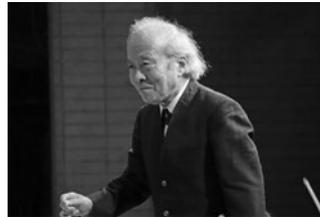
モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲*

【ソリスト・アンコール】マスネ／タイスの瞑想曲

ベートーヴェン／交響曲第7番

【オーケストラ・アンコール】J.S.バッハ／G線上のアリア



千葉市民会館開館50周年を祝う今回の公演は、桂冠指揮者尾高忠明のもと満席のお客様とともに開催されました。「初めて千葉で指揮をしたのは53年前」とマエストロ。



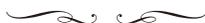
ソリストは国内外から注目を集める俊英・前田妃奈さん。名曲、チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」が力強く奏でられました

クラシック音楽との出会い、 現代

医療法人エレソル たにぐちファミリークリニック 理事長
谷口 聡



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第23回は、法人後援会員で埼玉県三郷市で地域医療・在宅医療を手掛ける「医療法人エレソル たにぐちファミリークリニック」理事長の谷口 聡 様。学生時代には吹奏楽部でトランペットを担当して担任の先生の影響もあり音楽にのめり込んでいかれた思い出、そして東京フィルでの印象的なコンサートの記憶を綴ってくださいました。



私の青春時代は昭和の末で、中学時代にCDが現れ、高校時代にレコードは急速に淘汰されていった。私の家にも古いレコードプレーヤーと新しいCDプレーヤーが同居していた。学生時代は吹奏楽部に所属し、朝から晩まで浴びるように様々な音楽を聴いていた。トランペット奏者らしくワーグナー派を自称し、マーラーの「交響曲第5番」の冒頭を何度も吹き直しては、CDで聴く一流オケ奏者との格差に絶望した。そんな高校時代に強く残る記憶の話。

私のクラス担任は美術教師だったが、私はこの先生が好きでしばしば美術準備室に潜入していた(美術教師がタバコ臭いのは日本人の共通認識だが、この先生も御多分に洩れず大層タバコ臭かった)。先生はサッカー部の顧問のくせしてクラシック音楽の大ファンで、僕に様々な曲を教えて下さった。また、よくレコードも貸してくれた。バーンスタインがピアノを弾いている、マーラーの『少年の魔法の角笛』や『さすらう若人の歌』、ウィーン・フィルの『大地

レナード・バーンスタインがピアノを弾いたマーラーの歌曲集『少年の魔法の角笛』（ピアノ版）のCDジャケット（メゾ・ソプラノ：クリスタ・ルートヴィヒ、バリトン：ヴァルター・ベリー）。このジャケット写真のCDは残念ながら廃盤のようなのだが、復刻盤などで聴くことができる



の歌』を借りた時は、これらの曲に衝撃を受け、学校をサボって一日中家で、貪るようにリピート再生して聴いた。学校をサボった件について先生は口をアグアグさせていたが、一言「いいだろう？ アレ」とだけおっしゃった。そしてその後続けて「いつでもいいけどちゃんと返せよ」と釘を刺された。レコードは返さざるを得なかった。

さて、最近の東京フィルで忘れられないのは、コロナ休止明け最初の定期演奏会だ。2020年6月21日のステージ、奏者が現れた瞬間、会場が感動に包まれたのは忘れられない。また、2022年2月24日にウクライナ戦争が勃発した丁度同じ時に東京フィルは定期演奏会を行っており、27日のBunkamuraオーチャードホールで聴いたショスタコーヴィチの「交響曲第1番」は素晴らしくも複雑な心境だった。指揮の井上道義氏は演奏終了後に短くスピーチされ、今、ショスタコーヴィチを演奏する意義、また、第二次世界大戦時にフルトヴェングラーが誤った思い込みにより非難された事などに触れ、この戦争により音楽と音楽家が偏見による不当な扱いを受けるべきではないと強く訴えられた事が印象的だった。

令和になり世界が急速に変化して行く中、東京フィルの紡ぐ音楽が、かけがえの無い宝として光り輝いているように私は思う。

谷口 聡(たにくち・さとし)

1969年長野県生まれ、1998年山口大学医学部卒業。山口大学医学部附属病院、松波総合病院、三愛会総合病院など勤務、2010年たにくちファミリークリニック院長。2015年医療法人エレル理事長。現在クリニック、訪問診療、介護施設など運営。三郷市医師会理事、三郷市地域包括支援センター運営協議会会長。 <https://taniguchi-fc.jp/>

寒い中にも春が近づいているのを肌で実感する頃となりました。

皆さまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

今月は、名誉音楽監督チョン・ミョンファン氏と東京フィルが20年ぶりとなる

『春の祭典』をお送りいたします。ご堪能いただけますと幸いです。

引き続き、当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サブライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員 (五十首順・敬称略)

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役社長CEO兼CHRO 増田 裕一
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 有吉 伸人	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 暹澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらさら安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつその発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
<https://www.tpo.or.jp/support>

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2024年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立113年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリユード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。

その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{のぼた} 鹿丈)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022(令和4)年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、2023年度も6月から1月にかけて、8校の小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催いたしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチヨン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけなかった公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。



お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時~18時/土日祝休)

1月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

匿名希望12名



特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外外部

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuika Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	岡村 彩香 Ayaka Okamura	大東 周 Shu Ohigashi	五箇 正明 Masaaki Goka	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	杉本 真木 Maki Sugimoto	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	チューバ Tuba	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	荻野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	トランペット Trumpets		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		鳥潟 さくら Sakura Torigata	川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	河野 星◎ Akari Kono	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	秋田 孝訓 Takanori Akita	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe		木村 達志 Tatsushi Kimura	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata		鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		井村 裕美 Hiromi Imura		中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『クラシックTV』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 啓介
専務理事	篠澤 恭助		瀬谷 博道
石丸 恭一	田沼 千秋		日枝 久
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佑子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉 2024(令和6)年2月22日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉県 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪ チケットの座席番号をチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪ 開演時間をチェック！

・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。
楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器をチェック！

・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認ください！

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪



こころの時間

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2024

